

C-64 近世以降における農民服飾 —構成上よりみた仕事着(三)—  
和洋女大家政 鷹司 綸子

目的 東北・関東地方に引き続き・中部地方の仕事着とその被服構成上から検討する。本研究は衣服を通じて常民生活の様相を探り、彼等の環境に対する適応と文化交流・更にそうした衣服の進化過程を明らかにすることと目的とする。

方法 劣仿着調査・標本・雑誌(和洋女子大学服装学研究室施行・収蔵)・郷土誌・民俗誌・緊急調査報告・等と主な資料として活用した。

成果 中部地方各地の仕事着にみられる特徴を明らかにする。当地方は概して・男子に股引・女子に腰巻形式が多く・特に女子に一部式服飾構成の傾向が強くみられる。上衣の工作法で特徴の現れる袖・裾の型・或は股引以外の袴類の裾の型も・東北・関東両地域に比べ・比較的型・種類共に割合に単純で・それが山脈を隔て日本海側と太平洋側の両地域に渡り乍ら目覚しい差が現れていない。